

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	湘北短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ショウホクタンキダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	春季インターンシップ(長期)・(短期)
	学部・研究科等名	総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科
	担当教職員名・役職	飯塚順一(教授、インターンシップセンター長)、石崎琢也(准教授、インターンシップ副センター長)他教員7名、小島裕子(オフィスコーディネーター)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	327
	受入企業等数	122
	受入企業等名	<a href="http://www.shohoku.ac.jp/subject/intern.html">http://www.shohoku.ac.jp/subject/intern.html</a>
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事務、販売、サービス等の通常業務実習の他、企業が社を挙げて行うイベントの運営企画と当日の業務担当を通じて、チームの一員として動き、成果を上げることが学ぶプログラムが用意されている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している、2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1～2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1年次後期に選択科目として開講し、在籍学生の96.2%が履修している。優秀な学生を選抜して履修させるのではなく、「インターンシップを本当に必要としている学生のために」という方針に基づき、実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している、2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習科目「インターンシップリテラシー」は、327人の学生を5クラスに分け、全15回の事前学習において、企業研究やビジネスマナー等の他、全学生が一人ずつ、目的や目標設定に関するプレゼンテーションを行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加全学生が、最終課題として「自己評価シート」の提出、および実習内容についてのプレゼンテーションを行なう。また、4月以降下級生を交えインターンシップ体験に基づき座談会を実施。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	全実習先122社、166ヶ所すべてに教職員が訪問し、学生、担当者と面談を実施。実習の状況確認を行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている、3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ループリク)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	授業内で実施する効果測定以外にも、最終課題として、社会で求められる能力・スキルに関する各項目を5段階評価で自己採点し、また実習先担当者からの同様項目の評価と比較し、成長度合いを多面的に把握する。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日～20日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	企業での事前研修、オリエンテーション、企業への事前訪問等
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習科目「春季インターンシップ(長期)・(短期)」のうち、(短期)は最低5日間を条件としているため、全員が5日間以上の実習に取り組んでいる。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学内の「インターンシップセンターサポートオフィス」に、専らインターンシップ業務を担当する「オフィスコーディネーター」が常駐し、百数十社に上る実習先企業との連絡を全て担当している。NPO団体等を通さずに行うことで、大学と企業との協働をよりスムーズにしている。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.shohoku.ac.jp/student/syllabus.html">http://www.shohoku.ac.jp/student/syllabus.html</a>	
問い合わせ先	大学等名	湘北短期大学
	担当部署名	インターンシップセンター
	担当者役職名	オフィスコーディネーター
	担当者氏名	小島 裕子
	電話番号	046-250-8931
	メールアドレス	kojima@shohoku.ac.jp